



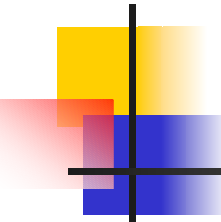
ITER関係 報告

昨年来の交渉の経緯について

日本原子力研究所

ITER業務推進室

奥村義和



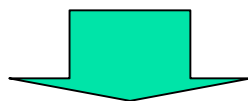
ITER 政府間協議

これまでに9回の政府間協議を開催。運営体制等、ITERの共同実施に関する協議を行い、協定書案を作成

会合	開催日	開催地	参加極	トピックス
N 1	2001/11/8-9	トロント（加）	日、欧、露、加	加のサイト提案を確認
N 2	2002/1/22-23	東京（日）	日、欧、露、加	
N 3	2002/4/23-24	モスクワ（露）	日、欧、露、加	
N 4	2002/6/4-6	カダラッシュ（仏）	日、欧、露、加	日欧がサイト提案
N 5	2002/9/17-18	トロント（加）	日、欧、露、加	各サイト候補地にて開催 サイト共同評価を実施
N 6	2002/10/29-30	六ヶ所村（日）	日、欧、露、加	
N 7	2002/12/9-10	バルセロナ（西）	日、欧、露、加	
N 8	2003/2/18-19	サンクトペテルブルグ（露）	日、欧、露、加、 米、中	米中が参加 サイト共同評価報告書を承認
N 9	2003/11/9-10	北京	日、欧、露、加、 米、中、韓	韓が参加

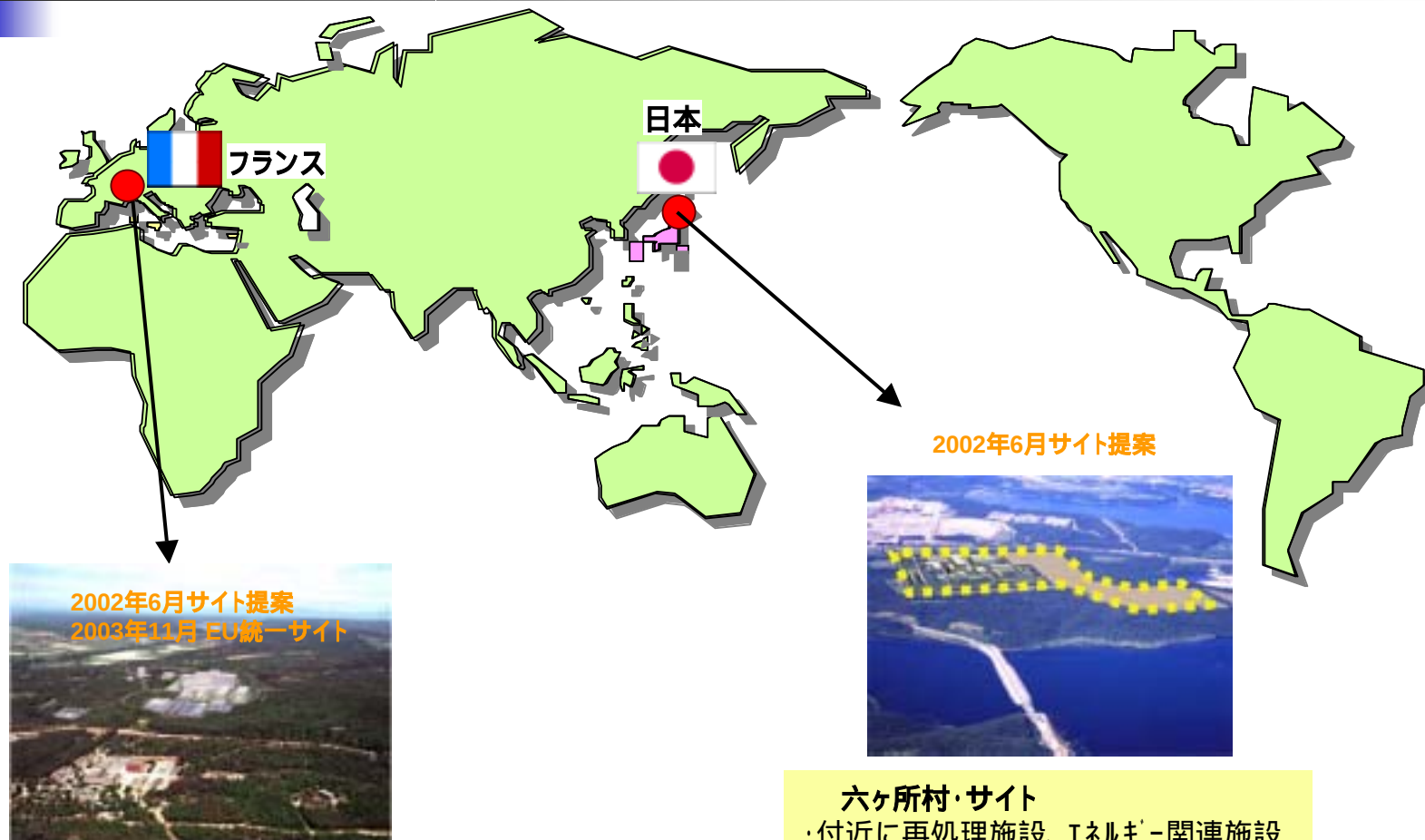
ITERサイト選定に向けての経緯(Ⅰ)

- カナダ・クラリントン、日本・六ヶ所、フランス・カダラッシュ、スペイン・バンデロスの各候補地について、2002年9月～12月に、サイト共同評価を実施。
- サイト間に差異はあるものの、**いずれのサイトもITERの実施に必要な条件を全て満たしていると結論。**
- 2003年11月に、EUがカダラッシュサイトに一本化。
- 2003年12月に、カナダが離脱。



ITERの建設サイトとしては、現在、我が国の六ヶ所とフランスのカダラッシュとが候補地。

ITERサイト候補地

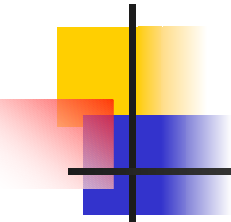


カダラッシュ・サイト

- ・CEA敷地(1,560ha)、600haの未使用地
- ・多くの原子力施設
- ・500～700MWの受電可
- ・冷却水を取り込む河川、貯水池あり
- ・エクサン・プロヴァンス市(人口15万人)から約40km

六ヶ所村・サイト

- ・付近に再処理施設、エネルギー関連施設
- ・安定な送電系統、十分な給排水
- ・港湾施設に近接
- ・青森市(人口30万人)、八戸市(人口24万人)から約50km



六ヶ所サイトの優位性

1. 優れた土地の特性

- 安定した地層が十分な厚みと広がりを持て存在。
- レイアウトの自由度が高い、平坦で広い用地。
- 70haの用地の無償提供。

2. 安定な電力供給と給排水能力

- 近隣の上北変電所から必要な高圧送電が可能。
- 将来的なITERの長時間定常運転にも対応可能な給排水の確保が可能。

3. 効率性の高い物資輸送

- むつ小川原港は、5,000トンの船舶が接岸し、1,000トンの機器の陸揚げが可能。
- 港から候補地まで既存の道路で大型構造重量物(600トン)を搬入することが可能。

4. 明確な放射性廃棄物の処分

- 低レベル廃棄物処分地が隣接しており、処分の目処及び確実な費用算定が可能。

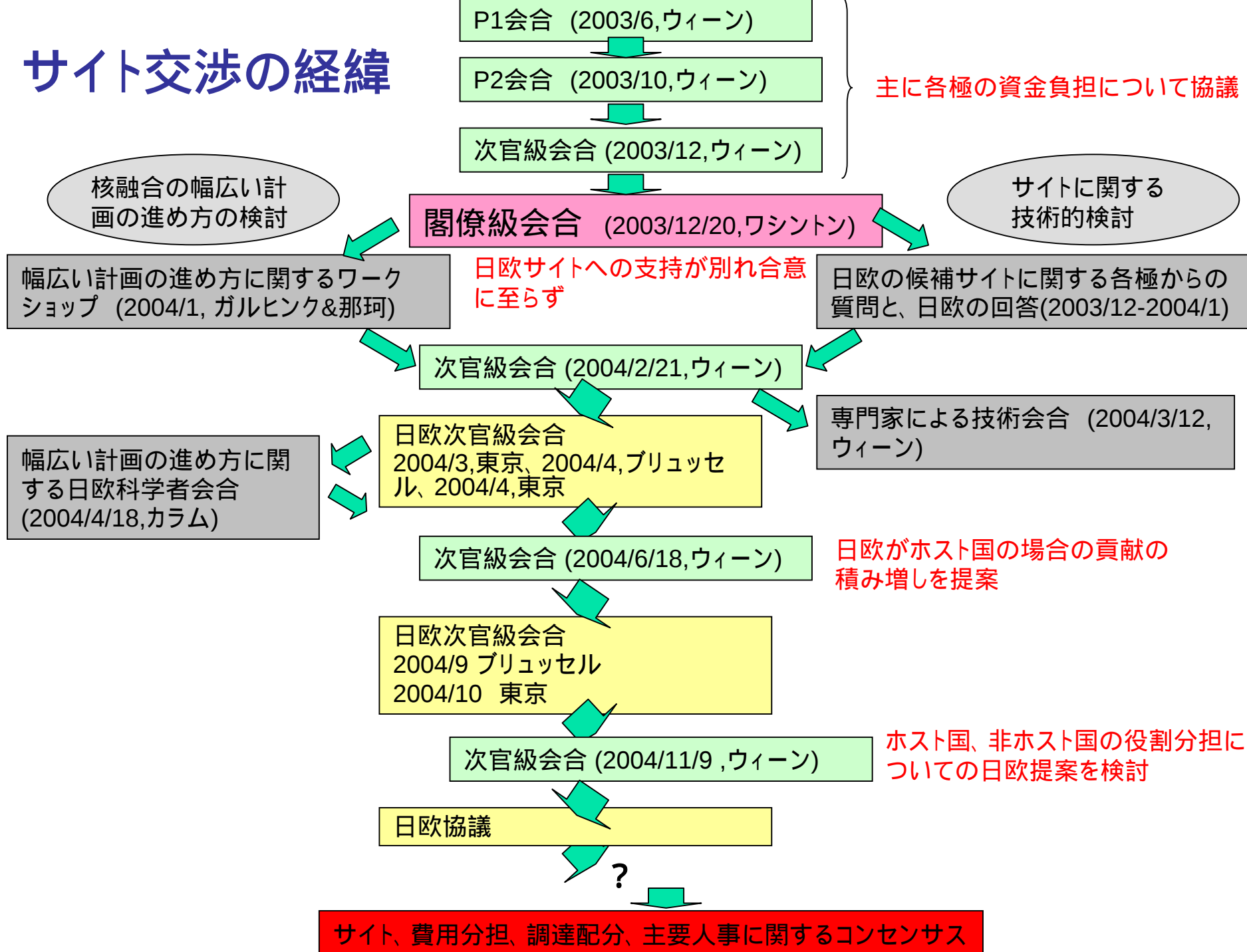
5. 原子力施設に対する地元の良好な理解

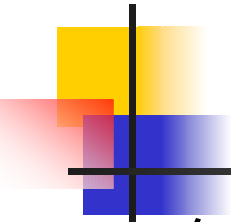
- 核燃料サイクル施設が存在しており、原子力への地元の理解が深い。

6. 社会生活面

- 隣接の三沢市等には、外国人の受け入れ経験のある、病院が存在。
- 「国際科学技術研究文化村」の形成を目指した新たな居住空間、「レイクサイドビレッジ」を整備し提供 する計画を検討
- 幼稚園から高校程度を対象とする国際学校を六ヶ所村内に設立する計画を検討。

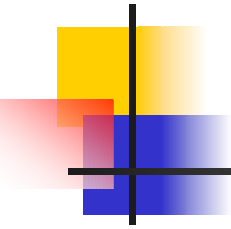
サイト交渉の経緯





ITERサイト選定に向けての経緯(II)

- 2003年12月20日、**サイト決定のための閣僚級会合**を開催。日欧サイトへの支持が拮抗し、建設地の合意には至らず。
 - 更に、日欧の**サイトに関する技術的検討**を行うとともに、
 - 核融合の幅広い計画の進め方（**ブローダーアプローチ**）を探究することに。
- 技術的検討については、2004年2月の**六極次官級会合**の後、2004年3月にウィーンにて、専門家による技術会合を開催。
- 2004年3月～5月に**日欧二国間協議**を実施。また、4月には日欧科学者会合を開催し、ブローダーアプローチを含めた日欧の役割分担を議論。
- 2004年6月18日に事態の打開を図るために再度、**六極次官級会合**を開催。日欧ともブローダーアプローチへの資金提供を含めた負担増を提案するも、拮抗状態は変わらず。
- 2004年9月～10月に更に**日欧二国間協議**を実施。**ホスト国と非ホスト国の役割分担のバランス**について協議を重ねる。
- 2004年10月9日に**六極次官級会合**を実施。**六極の枠組みが重要であることを確認**。更に日欧で協議することに。



6 極次官級会合(ウィーン、11月9日)

- 6 極の枠組みでの共同実施を確認。
- ホストと非ホストの役割分担についての日欧提案を検討

プレスリリースより:

The two potential Host Parties, European Union and Japan, presented the results of recent intensive bilateral discussions on the balance of roles and responsibilities of Host and non-Host in the **joint realisation of ITER in the frame of a six-Party international co-operation**. These discussions will continue in the near future with the aim of aligning the two Parties' views.

All Parties were greatly encouraged by the positive atmosphere and expressed their optimism that the process was now proceeding effectively towards a fruitful **conclusion among the six Parties** in the near future.

今後の展望

- 早期にサイトに関する合意を得て、協定案を完成し仮署名。
- 各極の批准手続きを経て、ITER事業体 (ITER International Fusion Energy Organization) の設立、建設作業を開始する。

